

厚い信頼受け開催20周年

FITチャリティ・ランがスポンサー募集

さまざまな社会課題解決への貢献を目的に、東京に拠点を置く金融サービスやその関連事業を展開する企業で働く有志が設立し、運営するFITチャリティ・ラン (Financial Industry in Tokyo For Charity Run) は、「FITチャリティ・ラン2024」の開催に向けて企業スポンサーを募集している。同イベントでは、スポンサーからの寄付金50万円〜/社およびイベント参加費を主な寄付金源とし、認知度等の問題から十分な活動資金を確保できないNPOへの寄付を実施している。2005年の開催以来、19年間で144のNPOに対して合計10億4000万円に上る寄付を行っている。FITチャリティ・ラン2024共同実行委員長の高橋子氏(ヒムコジャパンリミテッド)は、「FITの理念に共感していただき、支援していただく金融機関の皆さま、物資などを提供していただく企業、イベントの運営、実行を担うボランティアの皆さまのおかげで、今年開催20周年を迎えることができた。ご家族と共に楽しく参加でき、それが社会貢献につながる有意義なイベントなので、ぜひ多くの人に参加してほしい」と呼び掛ける。

FITチャリティ・ランなどの活動の記録を他 開催当日は400人以上 枚500円)が100万円は2005年に東京で 者と共有できるアプリ のボランティアと、40 円以上を売り上げるなど、金融業界の有志によ 「Strava(ストラバ)」を活用したオンライン集まった。通常のランニングイベントと、インのランイベントと、ング以外にも、プレミアを開催している。昨年は 明治神宮外苑の周回道路 ムホテル宿泊券などが当ランニング、ウォーキングの実開催を実施し、実 たるチャリティくじ(1

「楽しく社会貢献できる有意義なイベント」



金融業界の有志が国立競技場に集結

今回の開催20周年を迎える「FITチャリティ・ラン2024」は、昨年に続きオンラインと実開催のハイブリッド形式で行われ、実開催については9月16日(月、祝)に国立競技場で開催される。例年は12月開催だが、今年と同競技場の都合上、3カ月前倒しでの開催のハイブリッド形式

開催となる。寄付金額は、コロナ禍の影響で20・21年は大幅に落ち込んだが、その後は22年が5480万円、23年が5370万円と、ほぼコロナ禍前の水準まで戻っている。加えて昨年、過去19回実施による寄付金の合計額が10億円を超えた。

FITチャリティ・ランの特徴の一つは、社会的意義ある活動をしているものの、認知度等の問題により十分な活動資金を確保できないNPOへの寄付に特化していることだ。毎年、児童福祉や障害者支援、ジェンダー問題などに取り組む団体を企業スポンサー

等が推薦し、独自の選定ガイドラインに基づく審査、スクリーニングを経て、投票により寄付先団体を7〜8団体選定している。NPOが活動資金を確保するために申請する助成金では、使用目的が限定されていたり、報告義務が課せられたりする場合が多いが、FITチャリティ・ランでは、寄付金の使途についてかなりの自由度を与えている。1団体当たりが受け取る500〜600万円という高額な寄付金が比較的自由に使用できることは、寄付先団体にとって大きなメリットとなる。

高額の寄付を実現できる理由の一つに、経費率の低さがある。運営は全てボランティアで行われる上、イベント運営に必要な水やバナナといった飲食物やサービスを無償で提供する企業からの支援もあり、集まった寄付金に占める寄付先団体への寄付の割合は、05年の初回からの累計で90%近くとなっている。スポンサー企業にとつては、プロスポーツイベントへの協賛などはまだ違う形で、個社では出せないインパクトのある社会貢献ができるだけでなく、あまりなじみのない社会課題や、その支援を行う団体とのつながりが得られるというメリットもある。また、実開催当日は企業対抗リレーやキッズランといったプログラムも行われ、従業員エンゲージメント向上も期待できる。

さらに、スポンサー企業の従業員は、当日イベントに参加できるだけでなく、イベントを運営する実行委員会の一員として参加することもできる。実行委員会も全てボランティアで運営されており、総務担当チーム、IT担当チーム、企業スポンサー担当チーム、広報担当チーム、寄付先団体担当チームなど役割ごとにチームがあり、さまざまな小さな会社の様相を呈している。FITは保険業界のみならずさまざまな金融機関等に所属する70人ほどのメンバーが、本業でのスキルを生かし、会社や役職の枠を超えた連携の下で共通の目的に向けて業務に取り組んでいる。

表氏は、「金融機関等の社員からなるボランティアメンバーが、これだけの規模の寄付金をしっかりと管理してきた。東京都からも後援を頂くなど、皆さまの信頼を頂きながら20周年を迎えられたと思っています。楽しく参加できて、それが社会貢献につながる有意義なイベントなので、多くの人に知ってほしい」と話す。

同じく共同実行委員長の仲矢裕氏(三菱UFJフィナンシャル・グループ)も、「コロナ禍では実開催ができず、イベント自体の継続も危ぶまれたが、オンラインランを採用することでなんとか実施することができた。この20年間、イベントを絶やさず継続してこれたことに対する皆さまへの感謝の気持ちを大切に、今後も運営に携わっていききたい」という。

現在、FITチャリティ・ラン実行委員会では、スポンサー企業、および同実行委員会の新メンバーを募集している。今年の企業スポンサーの申込期限は5月17日。問い合わせはcommunications@fitforcharity.org.jp。